

教 務 旬 報

教務通信 第7号 令和8年7月14日

登校日数

66/196

点と点をつなぎ、あなただけの「答え」をカタチにしよう

総合的な探究の時間第5回目、7月17日(金)に行われます。今年度から、4、3、2 時間と様々なバリエーションで活動をしています。今回は夏休み前の最後の時間、前半戦の整理・まとめの時間になります。今までの探究をふりかえりつつ、後半の学びにつながるよう、実りのある学習にしましょう。

これまで皆さんは、それぞれが問いを立て、情報を集め、時には周囲に話を聞くなどして、たくさんの「探究の種」を蒔いてきたことと思います。これからの時期、重要になるのが【整理・分析】、そして【まとめ・表現】のプロセスです。集まったたくさんの情報やデータを前にして、「ここからどうすればいいのだろう」と手が止まってしまう人がいるかもしれません。しかし、ここからが探究の本当の面白さであり、皆さんの「底力」が発揮されるところです。

学びをさらに深めるために、次の3つの視点を意識してみてください。



集めた情報をただ並べるだけでは、まだ「調べ学習」の段階です。「なぜこの結果になったのか?」「自分の予想とどこが違ったのか?」と、一步踏み込んで考えてみましょう。パラパラだった情報(点)が、あなたの思考によって一本の線へとつながっていきます。

皆さんには、仕事、アルバイト、多様な人間関係など、それぞれの「リアルな日常」があります。「自分の目から見てどう感じるか」という独自の視点(フィルター)を、ぜひ分析やまとめに組み込んでください。それこそが、あなたにしか出せない独自の価値になります。

最後のステップは、自分の考えをカタチにして他者に伝えることです。「どうすれば、この問題を知らない人に届くか」「どう言えば、自分の熱意が伝わるか」を想像しながら表現してみてください。人に伝えるプロセスを経て初めて、その学びは完全にあなたの財産となります。

探究学習に「たった一つの正しい答え」はありません。あなたが悩み、考え抜いたプロセスそのものが、これから社会を生き抜くための大きな武器になります。途中で、迷子になりそうになったら、いつでも先生たちを頼ってください。皆さんがどんな「自分だけの答え」をカタチにするのか、楽しみにしています。



調べ学習から抜け出すための3つのアプローチ

①「比較」して違いをあぶり出す

単に情報を並べるのではなく、「AとBを比べる」「過去と現在を比べる」「日本と海外(地域間)を比べる」。比較の視点を持つことで、単なる事実の羅列から「傾向」や「問題の根本」が浮き彫りになります。

②事実(ファクト)と意見(オピニオン)を視覚的に分ける

ノートやスライドを「調べたこと(事実)」と「そこから自分が考えたこと(意見)」の2つに明確に分けさせます。

付箋の色を変えるのも効果的です。「意見」の枠が空っぽであれば、まだ調べ学習の段階だと生徒自身が気づけます。

③「私という主語(当事者意識)」を必ず入れる

「この問題について、働きながら学ぶ自分はどう感じるか?」「自分の職場や生活圏で活かせることはないか?」など自分事として語る部分を必須要件にします。

Memo

探究に向け 自分の関心があること つきつめてみたいこと 書いてみよう

探究学習における生徒の姿

探究学習では、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を経る。



<保護者の皆様へ>

教務旬報は、ホームページでもご覧いただくことができます。モバイルサイト(スマホで閲覧可能)も対応しています。

バックナンバーなどもご覧いただけます。

アクセスは以下のアドレスまたはQRコードへ

<http://www.kajogakuen-h.ed.jp/htdocs/定時制の課程/生徒・保護者の方へ/>

もしくは、「霞城学園高校」で検索をお願いします。

←

「令和6年度 年間行事予定」もホームページでご覧いただけます。

<http://www.kajogakuen-h.ed.jp/htdocs/定時制の課程/学園生活/>

